

## ABC パッケージの重要性と情報システムの構築

専修大学大学院 小酒井正和

### ABC パッケージ

ABC の誕生当初から多くのパッケージソフトが開発され、ABC の実施にはそれらが多く援用されてきた。現在の ABC ソフトウェア市場では、ABC 専用の単一パッケージソフトとしての ABC パッケージと、ERP パッケージと呼称される統合業務パッケージにおける ABC モジュールの 2 種の形態で入手可能である。本報告では ABC パッケージを主な考察の対象とし、情報システムの形態の視点から ABC システムの構築について考察を行う。すなわち、ABC パッケージをどのように用いることで、どのような情報システム形態をもって構築できるかについて報告する。

### ABC パッケージを利用した情報システム

情報システム形態は企業内での業務および情報システムの運用形態と関連させて、(1) 基幹系、(2) 情報系、(3) OA 系の 3 種に分類されるが、ABC パッケージを利用して ABC システムを構築する際にも、これらの情報システムの各形態を採用することができる考える。

ABC パッケージが市場に登場した当初は技術の制約上、ソフトウェア単体で利用されてきたが、技術の進展にともない、現在ではパッケージソフトを利用して比較的規模の大きい情報システムを構築することも可能となっている。現在の ABC パッケージは他ソフトウェアと接続し、1 つの情報システムを構築することを可能にする機能を有しているものが多い。このようにパッケージソフトを複数利用して 1 つの情報システムを構築する方法を、Best-of-Breed アプローチという。これにより最良と考えられる複数のソフトウェアを組み合わせで利用し、統一的な情報システムを構築することができる。

### ABC システムの形態

#### (1) OA 系 ABC システム

OA 系 ABC システムは基本的に、ABC パッケージ単体でのシステム形態を指す。このシステム形態は、他の形態よりも構築の手間がもっとも少なくて済

む。ただし、大量のデータ処理や複雑な分析支援には不向きである。したがって、情報分析の必要に応じて比較的小規模に限定して適用することに適している形態といえる。

## （２）情報系 ABC システム

情報系 ABC システムは、OA 系よりも分析の頻度が多く、柔軟な分析を行う場合に適用することが適切な ABC システムである。これは ABC パッケージを情報系データベース（データ・ウェアハウスや多次元データベース）と接続させることで実現できる。情報系では、ABC 情報が情報系データベースへ蓄積されることで、ABC 情報の分析を効率的に行うことが可能となる。たとえば、ABC 情報を多次元データベースへ蓄積し、OLAP（On-Line Analytical Processing）ツールを用いて、その ABC 情報を多次元的に分析することも可能となる。

## （３）基幹系 ABC システム

基幹系 ABC システムは、情報系よりもさらに分析頻度が多く、継続的な ABC 実施を前提とした形態であるといえる。このような ABC システムの究極的な目標は、ABC モデルのためのリアルタイム・データへのアクセスを可能にすることである。すなわち、基幹系において ABC モデルを維持することで、頻繁な ABC モデルの更新が可能となる。

以上のように、ABC システムの形態はさまざまなものが存在する。ABC システム構築において、自社の情報ニーズとシステム形態とを合致させることが肝要であると考ええる。ABC 実施に際して、情報システムの視点からの検討も 1 つの検討事項として重要であると考ええる。

### < 参考文献 >

Kaplan, Robert S. and Robin Cooper, *Cost & Effect: Using Integrated Cost Systems to Drive Profitability and Performance*, Harvard Business School Press, 1998.（櫻井通晴監訳『コスト戦略と業績管理の統合システム』ダイヤモンド社，1998 年。）

櫻井通晴『新版 間接費の管理』中央経済社，1998 年。